

2022年5月8日 聖餐式説教

本日復活節第4主日は、毎年神学校のために祈り、信施を捧げる日と定められております。私達もこの後代禱のところで、神学校のため、殊に現在の、そして将来の教会の働き人が増し加えられ、与えられますよう、祈ります。北関東教区では、しばらく、神学生がいない状況となっています。また東京の聖公会神学院も学生がいない学年がある状況となり、今後の教会の働き人のことを考えると心配です。私が司祭になりました時、全国に司祭が300人以上いましたが、現在は半分の150人程になっています。教会の働き人が備えられるよう、引き続きお祈りいただきたいと思っております。

しばらく前のことになりますが、京都にありますウィリアムス神学館で入学式が行われた際、私は共に出席する機会を与えられました。その時新たに学びのスタートを切る新入生は3名でした。入学式の中で神学校のスタッフである司祭様より説教がありました。神学校生活の中心は礼拝である。何事をなすにもチャペルからチャペルへ、礼拝の中で初めて主の働き人として召された自己を認識できるのである。と言われました。また、入学式終了後、神学校の方針として三つの柱、礼拝、生活、学びを大切にしていることが説明されました。神学校は神学の勉強をするところと考えておられる方が多いようです。もちろんそれは正しいことではありますが、それは一部であってすべてではないのです。一般に学校ではよい成績を取ることが重要ですが、神学校では、主なる神の声を聴くこと、主なる神より与えられる使命を果すため、必要なことを学ぶのが重要なことなのです。従って祈ることがまず必要であり、礼拝、生活、学びのバランスが不可欠なこととなるのです。出席者一同、その重要さを思わされました。

また、ウィリアムス神学館は京都教区立の地方神学校であります。日本には神学校が東京の聖公会神学院とウィリアムス神学館の二つしかなく、京都の神学校にも日本中の各教区から学びに来ることから、日本中に主の働き人を送り出す責任を感じさせられると、表明がありました。大変心強く感じた次第です。

私たちの教区からも将来の教会のため、必要な働き人が与えられることを切に祈ります。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主の願いなさい」。主イエスもこのように言われております。私たちが生き生きとした信仰生活を送ることが出来ますように、そのために働き人が備えられますよう祈り、求めましょう。